

平成27年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473600961	事業の開始年月日	平成17年6月1日
		指定年月日	平成23年6月1日
法人名	株式会社 藍和		
事業所名	クレール横浜いずみ		
所在地	(〒245 - 0018) 横浜市泉区上飯田町4724 - 3		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成27年11月20日	評価結果 市町村受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

最期までのケアを念頭に置いた運営をしており、重介護者であっても基本的にホームからの入居拒否はしていない。また、医療依存度の高い方においても、ほとんどのケースにおいて病院受診等も職員が受診の対応を行っている。そのうえで、ご家族様への報告・連絡・相談を行っている為かご家族様との密接度もかなり高いと思われる。そのうえで、日々その方らしく暮らしていただけるよう尊厳と個人の尊重に努めた対応を行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成27年12月17日	評価機関 評価決定日	平成28年3月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
この事業所は、最寄の相鉄いずみ野線いずみ野駅からバスで約10分の「ひなた山」バス停下車徒歩5分ほどの緑地や耕作地に住宅、工場などが点在する、緑豊かな地域にある。天気がよければ遠くに富士山や丹沢の山々が望める。

【広い空間と束縛を感じさせない介護】
事業所敷地には菜園、倉庫兼調理職員休憩所、広い駐車スペースがある。建物はリビングをはじめ廊下、居室などゆったりとした配置である。玄関やフロア入り口は日中全く施錠はせず、1階リビング前のウッドデッキは出入りが自由である。ウッドデッキと駐車スペースを開放して行うバーベキューは、近隣住民を交えて大勢が楽しんでいる。子供神輿が立ち寄った際には、利用者が外に出て子供たちを歓迎し交流している。いつでも外に出られるという環境が文字通りのバリアフリーとして利用者を落ち着かせ、のんびりと新聞を読んだり、利用者同士で談笑したり、事務スペースを覗き込んで微笑みかける人もいる。広い廊下で歩行の自主トレをしたりしている方もいて、それぞれが思い思いのことをして自由に暮らしを楽しんでいる。

職員は、理念のなかの「こころの声」に気づくスタッフを目指し、利用者の思いや意向を察して出来るだけ干渉せず、必要なことは援助して日常生活をサポートしている。

【看取り介護の実施】
事業所は医療機関と連携しており、重度の利用者の入居を拒否しない方針である。契約時に「重度化した場合の指針」を説明し、本人・家族が看取り介護を望む場合は「意向確認書」を取り交わし、医師の指示の基に職員と家族が連携して看取り介護を行っている。調査した月には2件の見取り介護を実施している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	クレール横浜いずみ
ユニット名	1階

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に理念について説明し、その後も申し送りや会議の場などで共有出来るよう、努めている。	管理者は職員に対して、理念の実践に当たっては利用者の「こころの声」に耳を傾け、相手の立場になってその人らしい安定した暮らしを支えるように話している。職員は、管理者の言葉を念頭ににおいて、本人の思いや意向をくみ取って支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のお祭りや、どんど焼きなどの行事に参加させて頂いております。又、近隣の中学校の生徒さんが体験学習で来られる事があり、今年は保育園の園児も来訪し交流を図っています。	町内会に加入し、盆踊りやどんど焼きなどに参加している。地区の子供神輿が立ち寄って利用者と交流をしている。中学生の体験学習を受け入れ、その後の交流もある。職員を介して保育園との交流の機会が生まれ、来訪した園児と遊戯や歌を楽しんでいる。ハーモニカ演奏のボランティアが来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、実施出来てはいませんが、地域に貢献できることがあれば、積極的に行っていきたいと考えております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内でのグループホームに出来る役割の確認や、地域・行政・ご家族様からの指摘事項を書面に残し、会議等で報告し、改善事項を検討しております。	運営推進会議は、2月に1回開催し、メンバーは家族、町内会長、地域包括支援センター職員、区の職員などである。会議では、活動状況や事故報告、行事予定などの後、意見交換をしている。毎年3月に上飯田地区の事業所の合同推進会議が行われ、防災や感染症の講話の内容を運営に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて、担当者の方とホームの状況等を報告したり、生活保護の担当者の方とも密に連絡を取り合っています。	泉区高齢・障害支援課とは、運営推進会議の報告などを通じて意見交換している。生活保護担当職員が毎年面接に来るので、利用者の状況を説明し相談している。上飯田町グループホーム連絡会に参加して情報交換している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成したり、内部研修、外部の研修に参加することで詳しい知識と経験を身につける事ができ、実践できる環境を作っている。	身体拘束をしない介護について、利用者や家族に説明している。職員には、マニュアルを使って全体会議で周知している。玄関やフロア入り口は日中施錠していない。ごく稀にはあるが、利用者が不意に外出したがる場合は、職員がすぐに同行し利用者の気の済むまで辺りを散歩している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修などに参加し、虐待をしないケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、学ぶ機会を持っていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	営業担当者により、十分に説明を行い、内容に納得していただき契約及び解約を行っております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や不満等がある場合は「クレーム・相談受付表」に記入して頂き対応しております。また、受付表はファイルし、保管しております。	家族が面会や行事で来訪した際に、利用者の状況を伝え意見や意向を聞いている。意見や苦情は「苦情・相談受付票」を備えて記録して共有している。利用者の衛生管理について意見があり、入浴の回数やシャワーの回数を増やすなどして改善した事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や、日常業務の中で連絡等を行い、意見や提案があれば、検討し反映させております。	管理者は風通しの良い事業所運営に努め、日ごろのサービスの現場や全体会議やカンファレンス、申し送りなどで職員の意見や要望、提案を聞いている。利用者の状況の変化に対応した勤務シフトの変更など、職員の提案を考慮して運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修等は基本的に勤務扱いとして参加を認めており、また、資格取得希望者へはシフトの緩和を図っている。また、1年間の実績に基づいて昇給を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量の把握に努め、必要に応じた、研修に参加させ、所感や習得した知識を報告させ、資料の共有を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣施設と行き来をしたり、泉区社会福祉協議会やグループホーム連絡会の会員となっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	営業担当者からの情報を基に入所時より対応しております。入所後もご本人様から要望を伺ったり、ご家族様からの情報を入手した時は生活記録等に記入し、職員間で情報を共有するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時営業担当者が担当し、十分な聞き取りを行い、要望に応えられるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際は、各サービスの必要性を検討し、必要であれば、各関係機関に打診し、対応できる体制を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや、お皿洗いなど、利用者様の能力を把握し、無理のないように、職員と一緒にお手伝いして頂き、関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントに参加していただいたり、面会時に利用者様の状況を報告してコミュニケーションをとるようにしている。又、毎月月報でも報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話は自由に出来るように支援している。希望があれば、外出の支援も行っている。	入居間もない利用者で、馴染みの牛丼店に行っている人もいる。訪問理美容を長期間利用して、今では馴染みの関係になっている人がいる。電話や手紙は、家族の了承を得たうえで取り次いでいる。知人が来訪した際はリビングや居室に案内して湯茶の接待をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の様子を見ながら適宜席替えをしたり、レクリエーションや日々のお手伝いなどを通して利用者様同士が関わり合える環境を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や、療養型病院へ転院され、退所された方について必要があればフォローしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の生活の中での利用者様からの要望や不満等を把握し、生活記録等に記入している。	職員は利用者と言葉を交わし合い、また利用者同士の会話を聞いたりして意向や思いを把握している。言葉にしづらい思いなどは、夜勤時や利用者の入浴時など1対1になる機会に聞き取っている。散歩中の会話で「万歩計」を着用していることが分かったり、思いがけない一面を知ることがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報や、入所後のご本人様の会話の中から把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルチェックや表情、申し送り健康状態を把握し、生活記録に一日の様子を記入し、生活のリズムや出来る事等を把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の意向を反映し、介護計画を立てるように努めている。	介護計画は、利用者ごとに長期・短期目標を設定してその具体的サービス内容を実施している。カンファレンスやモニタリングは通常は6ヶ月ごとに行い、計画の見直しをしている。時には利用者がカンファレンスに参加している。状況の変化があれば随時見直している。	介護記録の様式改善などを行って、計画の目標や具体的サービス内容に沿った記録をつけ、モニタリングおよび評価の具体的根拠として活用することを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に職員が気づいたことを記入し、情報を共有出来るようにファイルし、いつでも閲覧できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や要望に応じて、各機関に打診し、対応できる体制を築いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの図書館を利用している。又、地域の民生委員の方と情報交換をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には提携先の医療機関で往診・受診を受けているが、希望がある場合は添えるようにしている。	利用者全員が月1回の連携医の往診を利用している。必要に応じて随時個別の往診も行っている。その他の科目は家族対応で診療を受けているが、職員が同行することもある。歯科は月1回診療に来ている。看護師は24時間オンコールで、毎週1回訪問して健康管理などを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回訪問看護があり、利用者様の様子を伝え、状況に応じた、処置やアドバイスをもらい、必要があれば医師にも連絡してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師との話し合いの場にご家族様の了解を得て、同席させて頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や随時看取りについての意向を伺い、ターミナルケアが必要となった場合は、ご家族様、往診医との話し合いの場を設け、その内容を職員に周知している。	契約時に「重度化した場合の対応指針」を説明し同意を得ている。本人・家族の希望に応じて、医師、家族、事業所が話し合って看取りを実施している。これまでも看取りの経験はあり、職員は事業所の方針を理解して医師の指示と家族の協力の下、看取り介護を行っている。	これまでの看取りの事例を検討したり、心構えや注意点の研修を行うことにより、看取り介護に対応する職員の意識を高めることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を受けています。定期的に訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施している。運営推進会議にて地域の消防団にも協力して頂けるよう打診している。	防災訓練は年2回の実施で1回は消防署の立ち合いで行っている。夜間想定訓練は来年3月に実施の予定である。災害備蓄は飲料水・食料は3日以上、その他緊急キットやおむつなどの備品類が屋内と屋外倉庫にある。	町内会や地元自衛消防団などへの働きかけを行って、地域住民との防災協力体制を築くこと。災害備蓄リストによる水・食料やカセットコンロなどの備品管理を行うことを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様お一人おひとりの性格等を把握し、人格を尊重出来るよう、声かけや対応をしている。	職員は、人前で利用者の自尊心を損なうような言動を慎み、声の大きさなどに注意している。利用者のやりたいことや出来ることはやってもらうようにしている。失禁などの場合は、さりげなくトイレや浴室に誘導して処理している。個人情報を含む書類は、事務室に施錠して保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で利用者様の思いを汲み取れるように努めている。自己決定が難しい利用者様には声かけ等を工夫して引き出せるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極力、利用者様の意向を優先して過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えに介助が必要な利用者様には、なるべくご本人様にその日に着る衣類を選んでいただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は外部の業者に依頼しているため、一緒に調理をする事はないが、片付けは手伝って頂いている。利用者様の好みや希望は調理員に伝え、対応してもらっている。また、外食のイベント等も行っている。	食材や献立を、専門業者の調理専任職員が調達して調理している。利用者は、配膳や下膳などを手伝っている。職員は利用者と同じものを食べながら談笑したり介助したりしている。正月や雛祭などの季節料理を提供している。利用者の希望でラーメン店やファミリーレストランに外食に出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態によって食事の形態を変えてお出ししている。必要な方には介助をしている。食事、水分量は摂取表に記入し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや介助にて実施している。月に2回歯科の往診で口腔内のチェックをしてもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中、夜間、その日の状況に応じて布パンツ、リハパンを使い分けている。又、排泄表でその人の排泄パターンを把握し、失敗のないように声かけ、誘導している。	職員は利用者ごとの排泄パターンを把握してトイレに誘導し、自力排泄を促している。失禁した場合は、そっと居室やトイレ、浴室に案内して対応している。夜間の排泄介助は、個別の状況に対応して時間を定めてパット交換したり声かけ・誘導をしたりしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者様には水分を多く摂るように促し、体操などにも参加していただいている。便秘が続く場合は往診医や訪問看護に相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	極力、希望の時間帯に入浴して頂けるように努めている。拒否の多い方には、何度か声かけし、入って頂ける時間帯を把握するように努めている。	週2回の入浴を原則とし、浴槽の湯は1人ずつ入れ替えている。利用者の希望によって時間や回数は柔軟に応え、体調などによってシャワー浴や清拭に変えることもある。基本的には同性介助である。浴室全体の温度管理に気を配り、柚子湯や菖蒲湯で季節を楽しんでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、眠れない方には体操や散歩など活動量を増やし、良眠できるよう努めている。日中も夜間の睡眠に差し支えない程度に休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全利用者様の薬の説明書をファイルし、全職員が閲覧できるようにしている。又、往診や受診の際に利用者様の状態を報告し、必要であれば、増量・減量してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いをしてもらうことで、役割を持って頂いている。又、レクリエーションや定期のイベント、散歩やドライブで楽しんで頂けるように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な散歩や、ドライブは行っているが、全員の希望には添えていない。	天気の良い日は、3日に1度は交替で散歩に出かけている。車椅子の利用者も出かけている。リビングから続く広いウッドデッキには椅子やテーブルを備え、日光浴や外気浴、お茶などでくつろいでいる。季節ごとに桜の名所や江ノ島などにドライブで外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大切さは理解しているが、一部の利用者様を除いては事業所で管理している。買い物は職員と一緒にいき、希望の品を購入して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話の使用や手紙を出すことを遠慮せずに行っているようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調整や、テレビの音量など利用者様が快適に生活できるように気をつけている。季節に合わせて飾り付けをしたり、花を活けている。	敷地には、畑や菜園、ウッドデッキ、広い駐車スペースがある。内部は明るく清掃の行きとどき、年2回全館の定期清掃がある。ゆったりとしたリビング・ダイニングを囲んで廊下と居室、キッチンなどが配置され、壁には職員と利用者全員の今年の抱負が清書して張り出している。季節の飾りもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デッキやベランダにベンチを設置したり、リビングにソファを置き利用者様同士が過ごせるようにし、利用者様同士が談笑されている姿も多く見受けられている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に今まで使っていた家具などをお持ちして頂くようにしている。家具の配置なども危険のない限り、ご本人様・ご家族様の意向を取り入れている。	居室は大きい窓から光が差し込んで明るい。防災カーテンや照明器具が常備され、ベッドやテレビ、家具類、仏壇、家族の写真など使い慣れたものや見慣れたものを持ち込んで住み心地よくしている。日常の清掃は職員が行い、手伝う方もいる。入口に独自の飾付けや表札があり分かりやすい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様、ご家族様の要望に応じて家具の配置を変えている。動線に物を置かないように気を配っている。		

事業所名	クレール横浜いずみ
ユニット名	2階

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議の際理念を確認し、又職員の目に留まる箇所に掲示し職員一人一人が実践できるよう取り組んでおります。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のお祭り・おみこしに参加したり、月1回ボランティアのハーモニカ演奏会を実施、また天気の良い日には近隣へ散歩に出かけています。その他近隣の中学生・保育園児に来訪して頂き交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	専門的な事は出来ていませんが、中学生が来訪の際に質問等に対応しております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内においてのホームの役割の確認、行政・ご家族様からの要望、質問、指摘事項等書面にし会議等で報告し改善事項があれば検討行っています。また他ホームでの行事やレクリエーション等を伺い参考にさせて頂いています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外ではあまり連携は取れていませんが区の保護課の担当の方とはこまめに連絡を取り合い利用者様の状況を報告しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	地域で実施される研修等に参加し、参加職員はホームでの会議の際各職員に内容を報告し情報を共有できるように取り組んでおります。また独自に資料を準備しホーム内での研修を行っています。玄関の鍵は日中は開錠していますが夜間は防犯上施錠しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加し、参加した職員は日々の業務中や会議の際他の職員に伝達し情報を共有して虐待の無いケアに努めております。また業務中に職員間で気になる言動があればその都度声掛けし合う様にしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見制度を利用されていた利用者様がおられたため、その際に制度について多少の知識を得る事が出来たが、今後必要とされる方がおられた際には活用して頂けるようにさらに知識を深めておく必要があると思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約・改定等の際は営業担当者が納得して頂けるよう十分に説明を行い、契約、解約を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・不満・要望等のある場合は「クレーム・相談受付表」に記入して頂き対応しております。ご家族来訪時にはホームに対する要望が無いかわりに伺う様に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や申し送り時に意見や提案を出し合い検討を行い、反映させております。またそれ以外の際も意見があれば気軽に発言してもらえよう心掛けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況は常に把握し、本人の頑張り、努力等見られる際はその都度声掛けを行い上司に報告するようにしています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれ経験・能力・力量の違いがある為、その人に合わせたケアの取組みが行えるようアドバイスしています。外部の研修の案内が届いた際には積極的に参加出来るように取り組んでおります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣施設との交換研修に参加し、他施設で行っている行事やレク等参考にさせて頂いています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に営業担当からの情報や、利用されていたサービスからの情報を参考にし、今までの生活歴を把握した上で、出来る限りご本人の要望に沿えたサービスが提供できるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時営業職員が担当し、ご本人・ご家族に十分な聞き取りを行い、要望を申し出て頂けるよう対応し出来る限り要望に応えられるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、各サービスの必要性を検討し必要であれば各機関へ連絡し、サービスを受けれる体制を整えております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事は可能な限り行って頂けるよう、掃除や洗濯等は積極的にお手伝いして頂いています。また利用者様同士でも対等の立場で接して頂けるように努めております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日頃の様子をお伝えしたり、必要に応じて電話連絡を取りその時々の様子をお伝えしております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に通っていた店や飲食店に出掛けたり、思い出の場所へドライブに出掛ける機会を設けています。ご家族にも積極的に面会に来て頂けるような環境作りに努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの方の能力に合わせた家事が行えるように配慮し、日々の生活の中で体操やレクリエーションに参加して頂く機会を設けコミュニケーションが取れるように努めております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ転院されたり入院中の方への相談や支援のできる体制を取っております。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の生活の中での思いや希望、不満等日々の言葉の中より思いを把握し生活記録等に記録をし、職員目線にならないように努めております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報やご本人との会話の中で把握したり、ご家族より聞き取りを行い、また以前利用されていたサービスの関係者の方への聞き取り等行う様にしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや表情・行動等で健康状態を確認し、生活リズムや過ごし方、行った事、出来た事等を記録に書きとめ把握するように努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の意見を十分に聞き取り、職員で課題を抽出し合い、ご本人本位になるような介護計画が作成できるように努めております。また状態に変化が見られた際は現状に応じた計画に変更するよう努めております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々に日々の様子を生活記録に記入し、職員の気づき、実践の結果等も記入し、記録は前職員が常に閲覧出来るようにファイルにしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じ、各機関に打診し対応できる体制を設けております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々との交流を持って頂く機会を作ったり、公共機関（図書館や地区センター等）が利用できるよう支援しております。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	ご本人・家族に経済的な負担等も含め納得した医療を受けて頂けるよう要望を伺い、各機関と連携を取っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護を受け、一週間の様子を看護師に伝え相談し、その時の状況にあった処置やアドバイスを受けています。また緊急時等必要に応じその都度連絡を取れる体制を整えております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族に了解の元、医師との話し合いの場に同席させていただき治療に協力できるよう努め、退院後の指導等受けております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、また随時看取りケアについての意向を伺い、ターミナルケアが必要とされた場合にはご家族、かかりつけ医との話し合いの場を設け、ご家族が納得して頂けるケアが行えるよう努めております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救命救急講習を受講し、定期的にホーム内での訓練を実施しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回消防署立会、指導の下、避難訓練を実施しております。災害時には地域に協力して頂けるよう、運営推進会議の際に町内会の消防団に協力して頂けるよう打診しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議や申し送り時に個々の対応方法等適切な対応が出来ているかを職員間で確認し合い、人格の尊重、プライバシーの確保が行えるよう努めております。]
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での会話や状況から希望を表現して頂けるような環境作りに努め、レクリエーションや外出、体操等の参加の有無はご本人に決定して頂き、表現の難しい方へは声掛け等の工夫を行う様にしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りご本人の希望を優先し、その人それぞれのペースで過ごして頂けるように努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの準備はご本人に選んで頂くか、職員と一緒に頂きご本人の好みを優先しています。衣類や靴等の購入の際にはご本人に選んでいただく様にしております。また訪問美容の際はご希望を伺い希望に沿ったカットを受けられています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は専門の業者が行っている為実施出来ておりませんが、準備や片づけは一緒に行っています。また個人の好みを周知し可能な限り希望の沿えるよう支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状況にあった食事形態で召し上がって頂き、また必要に応じ介助や声掛けを行っています。食事、水分量は摂取表に記入し把握しております。食事摂取が困難な方へは捕食・医療食等を提供しカロリー摂取が出来るように努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや介助にて実施しています。口腔内の状態に合った物品を使用し頂けるよう提供しております。また月に2度歯科往診にて口腔内の清掃、チェックを受けて頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中・夜間・その日の状況に応じてリハパン・布パンツ等使い分けています。また排泄表で個々のパターンを把握し定時で誘導行いトイレで排泄が行えるよう支援しております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操やレク等で身体を動かして頂き、また便秘がちな利用者様には水分量を増やし、便秘が継続する場合は往診医や訪問看護師に報告し指示を頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の希望を何う様努力しているが、職員の都合になっている事が多くあります。浴室ではご本人のペースでご希望に沿えるよう対応し、また入浴中は1対1で会話出来る機会なので利用者様との会話の時間を大切にしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠傾向の方には体操や散歩等で活動量を増やして頂いています。日中も体調に応じ夜間の睡眠に差しさわりの無い程度に休んで頂いています。天気の良い日には布団を干し環境整備にも努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全利用者の薬の説明書をファイルし、職員全員が常に関連できるようにしております。また往診、受診時に現状を報告し必要であれば増量・減量をして頂き、薬について不明な点があれば提携薬局に確認できるよう体制を整えています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	10時には好みのお菓子を召し上がって頂いたり、カラオケやビデオ鑑賞等行えるように支援しております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近隣へ散歩に出掛けたり、定期的にドライブに出かけて頂いています。また協力頂けるご家族には同行して頂き外食を楽しんで頂いています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はホームで行っており、利用者様での管理は出来ていません。近隣のスーパーへ買い物に出掛けた際には可能な方はご自身で会計して頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をお渡しし使用して頂いています。また手紙のやり取りも行って頂いていますがポストへの投函は職員が実施しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事ごとの飾りや写真、利用者様が作成した塗り絵などを掲示しております。テレビの音量や照明は快適に過ごして頂けるよう職員で調整を行い、夜間は危険のない程度に照明を落とし快眠に努めております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダにベンチを設置したり、窓際で日光浴が出来るよう椅子の位置を変え快適に過ごせる空間を作っております。また利用者様同士で談笑できるようソファを設置し利用して頂いています。居室ではお一人の時間を過ごして頂きたい際は簡易的なカギを利用して頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に今まで使用していた家具等をお持ち頂き、危険の無い限り配置はご本人・ご家族の意向を取り入れ対応しております。ご希望の際や必要に応じその都度配置の移動も行っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・共用部分共に動線に物を置かない様気を付けております。		